

新 防災力

あすに備える

NPO法人「阪神高齢者・障害者支援ネットワーク」理事長

黒田 裕子さん

くろだ ひろこ NPO法人「しみん基金・KOBÉ」理事長、「日本ホスпис」在宅ケア研究会 副理事長、04年度の朝日社会福祉賞を受賞。



的にいじらなければ。

「在宅で酸素吸入をしている人の場合、携帯用のストックは持っているけれど、災害時には携帯用の酸素も一本しか持参できない。在宅酸素をしている人は登録されているから、業者がすべて把握しています。しかし、業者が避難場所に顧客の患者さんがいるかどうかを確認しようとしても、『個人

情報を保護法の問題があるから言えません』といわれたら、もう命は助からない。だから、いったん落ち着いたら、自分から業者に避難場所を知らせなさい、と。災害でせつかく助かった命を、避難してから失うことにもなりかねない。そうした指導が最も大事なことだと思えます」

地域に「コンビニ福祉」を

ている服はもちろんですが、寝間着にもポケットをつけて、その中に薬を入れておく。そうすれば、災害が起きてとっさに飛び出しても、当面の対応はできます」

「水書の救済活動でもう一つ体験したのは、胃がんの手術をして退院したばかりの人がいて、まだ普通のご飯を食べていなかった。避難所に行く、おにぎりや乾パン、お菓子しかない。その方は七

命を守る

分がゆを食べていたので、そんな硬いものは食べられない。おかゆは重たいで一回分だけいいので袋に入れて用意し、あとは衛生ボローやビスケットを非常時に備えて置いておく。在宅治療のために今ほとんど退院させるようになってるので、病院は災害時の退院指導をしておかないといけません」

「地域のアセスメント」も重要だと指摘されていますが、ど

「寄合い」所帯の仮設住宅でコミュニケーションを高めるために、みんな暮らしに視点を開きました。人の集

ら場所を提供すれば、支え合う仕組みそこに行けば情報があつて、人と会えることができる。また行ったら、お年寄りが健闘の中心に、あい喫茶を中心に、うに地域のあちこちをめぐると、互いに守ることもできます。んはろう、生きていにもなります」

「地域の小学校と重要なです。お年寄りの遊びを教え、子ども達に『これがデイだ』といつて立ち寄りつなぎあわせ、相手いことは何なのかという。私たちは仮設住宅で支えら、そらやうに地域できました。地域をそこで暮らす人々に

災害が起きた時、自分の命を守るためには日頃からどのような準備をしておけばよいか。お年寄りや慢性疾患を抱える人のためには特別な対応も必要だ。このシリーズの最終回は、家庭で出来る防災の知恵について、阪神大震災の被災地で高齢者や障害者の支援に取り組んできた看護師の黒田裕子さんに聞いた。

(編集委員・野呂雅之)

「三重県で水害が起きたとき、持病のあった人が心臓発作を起したのですが、家が流されて服用していた薬もなくなってしまう。この時はすぐに手当てができ

て助かったのですが、心臓病や高血圧、糖尿病など慢性疾患のある人は自分の身は自分で守るために、薬を常時持っていることが重要だと気付いたので。自分にとって一番大事な薬は、3日分と、うと大変なので、3回分だけでもいいので必ず身につける。普段着

「災害時の退院指導とは具体的に

「災害時の退院指導とは具体的に

「災害時の退院指導とは具体的に

「災害時の退院指導とは具体的に

「災害時の退院指導とは具体的に